

令和元年度 第1回 昭和大学病院 医療安全監査委員会 議事録

日時 令和元年 11月21日(木) 午前10時00分～11時15分

場所 昭和大学病院中央棟7階研修室

出席者 監査委員

貝阿彌誠委員長(弁護士)、越石孝一委員(患者代表)、
高橋寛委員(昭和大学藤が丘病院病院長)

病院側

板橋家頭夫病院長、小林洋一医療安全管理責任者(副院長)、
武井秀史医療安全管理副部門長、荒川千春看護部長、佐々木忠徳薬剤部長、
徳田幸子医療安全管理者、古田康之医療安全管理者、二瓶友美医療安全管理者、
大石竜医療機器安全管理責任者、田口彰彦事務部長、佐々木真管理課長、
大川宏クオリティマネジメント課係長、林 晃汰医療安全管理部門専任事務員、
横山健吾医療安全管理部門専任事務員、代田遥菜医療安全管理部門専任事務員

欠席者 大嶽浩司クオリティマネジメント室長(副院長)、野田秀裕医薬品安全管理責任者

議 事

1. 病院長挨拶

板橋病院長より、挨拶があった。

2. 委員長挨拶、出席者紹介

今年度より就任した、貝阿彌委員長より挨拶があり、監査委員と病院側の出席者の紹介があった。

3. 前回議事録の確認

前回議事録の確認を行い、承認された。

4. 医療安全監査委員会概要説明

当委員会の概要について説明があった。

5. 監査項目

1) インシデント件数について

2018年4月から2019年10月までの報告件数・報告率について報告があり、以下の説明や議論があった。

- ・2018年度と2019年度を比較し、件数の大きな変動はなく、同様の傾向(ドレーンチューブ、薬剤関連、検査画像、転倒転落に関するインシデントが多い)が見受けられるとのことであった。
- ・当院の特徴として褥瘡に関するインシデントが多いことが挙げられ、褥瘡チームの活動が積極的に行われていることが理由であるとの説明があった。
- ・今年度より研修医は年間8件以上インシデントレポートを提出することを臨床研修プログラム内で義務付けしたことにより、研修医の報告率が増加しているとの説明があった。
- ・高橋委員より、少ないセーフティネットでインシデントを減少させるための取り組みをしているのかとの質問があった。

→全部署のセーフティマネージャーが集うテーマ別分科会にて、当院としてのダブルチェックの在り方について検討しているとの説明があった。

・貝阿彌委員長より、インシデント報告はその後どのようなかたちで活かされるのかとの質問があった。

→医療安全管理部門内で協議し、対策を立案していく流れになっており、上記に記載されているテーマ別分科会でも議論している。

2) 院内急変対応システム(Rapid Response System)の継続的運用と休日時間外の運用改善システムの概要と起動件数(コードブルー件数との比較を含む)について、報告があり、2019年度より24時間対応可能なシステム(それまでは平日の時間内のみ)に改善したとの説明があった。

またこれまでは平日時間内と休日時間外で別のフロー図を用いていたが、休日時間外であったにも関わらず平日時間内のフローをみて対応し、現場が困惑したことを受けて、2019年12月2日より1つのフロー図にまとめた運用を開始するとの説明があった。

高橋委員より、消化器内科と整形外科の起動件数が多いが、起動後のフィードバックを診療科に対して実施したほうが良いとの意見があった。(特に看護師が起動する前の医師の対応について)

貝阿彌委員長より、全国的に当システムが普及したのはいつ頃で、普及したきっかけは何であるかとの質問があった。

→5年程前より日本医療機能評価機構が推奨していたことが要因であるとの説明があった。

また当システムを立ち上げてから何か変化はあったかとの質問があり、看護師の患者の観察に対しての意識が高まっているとのことであった。

3) Mortality & Morbidityカンファレンスの継続的実施

令和元年9月19日に実施されたMortality & Morbidityカンファレンスについて、今回はワーファリンの問題点と安全な使い方を学ぶことを目的に開催したとの報告があった。

4) 事例報告

医療安全管理部門主導のもと実施された症例検討会で検討した事例について説明を行い、原因分析や対策について評価を行った。

貝阿彌委員長より、急変に関する症例検討会の参加者について質問があった。

→当該診療科・医療安全管理部門・救命救急科・当該病棟師長・その他関連部署で構成されるメンバーで検討していると説明があった。

また検討内容は、院内情報共有システムや委員会等を通じて、全職員に対してフィードバックされる仕組みとなっている。

6. 講評

3名の委員より以下のとおり講評があった。

【貝阿彌委員長】様々な取り組みをされていて素晴らしい。医療安全をやっていると会議等でも多くの時間が割かれるが、取り組みに対する効果を考え、効率的に実施すると良い。画像診断結果の共有をどのようにしているか次回教えてほしい。

【高橋委員】RRSやコードブルーに対して検討会を開催している等の取り組みは素晴らしい。今後はセーフティネットに頼りすぎず、診療科が医療安全や診療に対しての意識を向上していけるような方策を考えると良い。

【越石委員】他院にて薬剤を過剰投与した事例が報道されたため、当院で起こらないよう警告システム等を再確認したほうが良い。

以上

議事録作成：管理課 佐々木 真